

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 038

学校名 愛知県立 長久手 高等学校

校長氏名 杉本 正 樹

研究責任者職・氏名	教務主任・中田 拓麻	
研究テーマ	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりと評価の一体化	
本年度の研究目標	(1) 生徒が主体的に授業に参加し、対話的な深い学びのできる授業づくりを目指す。 (2) 授業のねらいにつながるような、効果的なICT機器の使用を実践する。その中から課題を発見し、より効果的な使用方法を摸索する。	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
4月11日	情報化推進委員の募集(教科主任会)	
4月25日	情報化推進委員決定 情報化推進委員会立ち上げ	
6月17日	ICT活用研修(ICT支援員・情報化推進委員会主催)	
6月21日	主管校(旭野高校)との打ち合わせ	
6月27日	授業改善の取組の現状	
9月18日	数学I 研究授業	1年7組
10月16日	授業参観週間	
~23日	論理国語 研究授業	3年1組
	地理総合 研究授業	1年2組
	数学α 研究授業	3年8組
	物理基礎 研究授業	1年4組
	保健 研究授業	2年1組
	コミュニケーション英語II 研究授業	2年7組
	家庭基礎 研究授業	2年4組
	情報I 研究授業	1年6組
10月18日	公開授業・学校評議員会 主管校からの指導・助言 中学校教員との情報交換会	全学年
10月28日~	各教科会において研究授業の振り返り	
11月 1日		

<p>1 1月29日 3月10日</p>	<p>第2回あいちラーニング推進事業尾東地区連絡協議会 主管校・重点校報告 研究成果の報告・共有</p>	
<p style="text-align: center;">研究成果の評価及び普及・還元に関する実績</p>		
<p>1 ICT活用研修 今回の研修では、ICT支援員を講師に招き、デジタル採点システムについての研修を実施した。昨年度までの、本校の課題として、ICTの活用についての意識に個人差があることが挙げられた。今回デジタル採点システムを利用することで多くの教員がICTを活用することの利便性や有効性を感じることができた。直接的に授業に関わる内容ではなかったが、このことが授業にICTを導入するきっかけになったと考える。</p> <p>2 本校のICT活用の活用と成果 重点校に指定されたことや、上記のような研修を行うことによって、ICT機器を用いて授業を行う教員の数は確実に増えてきている。昨年度までの課題で、研究授業や授業参観週間だけでなく、ICTを「普段づかい」できるようにしたいということが挙げられたが、その成果が認められた。全教室にプロジェクタとスクリーンが設置されており、板書ではなく投影しながら授業を行う教員が特に多い。板書の時間が短縮されること等の効率化により、結果としてグループワークなど生徒がアクティブに活動できる時間が多くとれるようになっている。 また、ICTを活用した際に、これまでの授業とどのような違いがあるかについて検証した教員もいた。その中で、授業での活用だけでなく家庭学習にも取り入れることで、一定の成果があるのではないかという結論が出た。このような取り組みについても全職員で共有することができ、授業改善について全職員の意識がより一層高まったと考える。</p> <p>3 今後の課題 上記のように、プロジェクタとスクリーンを使用し、板書の代わりとしてICTを活用するは浸透してきた。しかし、それ以上の使い方をしている教員はまだ多いとは言えない。中学校教員との情報交換会においても、「中学校に比べて先生が話している時間が長い」という指摘をいただいた。ICTの活用はあくまでも手段であり、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を進めていく必要がある。</p>		

※ 本研究報告書は、令和7年3月14日までに当該地区の主管校に提出する。

※ 名古屋地区においては、旭丘高校、千種高校、城北つばさ高校、旭陵高校、愛知総合工科高校は瑞陵高校へ、明和高校、守山高校、愛知商業高校、中川青和高校は名古屋西高校へ提出する。